

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	平成28年2月12日	評価結果市町村受理日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成28年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖北台ケアガーデンワカバでは、会社方針である「思いやり・労り」の気持ちを念頭におき、事業所スローガンとして「支え・愛」⇔支え合い、愛溢れるケアを実現出来るようお客様の生活のサポートをさせていただきます。いつも笑いが絶えない環境づくりが実現出来るよう職員一丸となり、日々取り組んでおります。皆様と自由にお話しやお食事など一緒に楽しい時間を共有していただける環境でもございます。お客様が地域の方々とお付き合いが出来て、且つこれからも楽しく安心して寂しさを感じない生活を送っていただけるホームを目指しております。

理念の「支え・愛」をホーム全体で具現化しようとする努力がうかがえる。本年度は「5分以上会話をしましょう！」を目標に定め、利用者スタッフとのコミュニケーションを図り、利用者の充実した暮らしにつなげたいと考えている。利用者「笑顔で過ごしてもらおう！」ために、事業所はブネ法(音楽)・足湯などを取り入れている。ホームは自治会に加入し、地域の活動には積極的に参加している。子供110番の家を引き受け、地区の防災訓練、イベントには利用者と一緒に参加している。ホーム主催の行事には、家族や地域住民の参加がある。また、ホームで開催している「介護予防教室」は、行政と共に更に地域に広げていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え・愛」をモットーにお客様をはじめすべての方々が「笑顔」で過ごせる環境を築き上げるべく職員一同「思いやり・労り」を念頭に誠意を持ってご対応させていただいております。	玄関に理念を掲げ、職員は朝礼やミーティングで共有している。管理者は理念を踏まえ、笑顔で、親身になって接していく事が大切であると職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議・行事・イベント等(ホーム主催・自治会等主催)地域の方々との「接点」を持ち続けていけるよう「参加したり」「参加していただいたり」して地域交流・繋がりを大切にさせていただいております。	自治会に加入し、地区の地域活動には積極的に参加している。子供110番の家を引き受け、地区の防災訓練、地域のイベントには利用者と一緒に参加している。ホーム主催の行事にも、家族や地域住民の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、市内及び地域の高齢者問題、認知症独居者の対応についてなど高齢者なんでも相談室様、自治会様、見守りの会様と話し合い且つ、防犯対策の一環として「こども110番」拠点を設置してPTA様とも連携して情報共有させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員様のご意見や助言を頂戴して改善出来る事は率先して実行していくよう努めております。特に地域交流に関しては自治会長様と連携を図り行事・イベントへの積極的な参加、災害対策での連携強化を含めて、地域に根差して安心して利用出来るホームにしていけるよう強化に努めております。	運営推進会議は小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、年6回実施している。行政の参加で新しい情報を得ることができている。会議の議事録に市の広報を添えて家族に送付し、情報を伝えているが家族の参加が少ない状況である。	前もって会議のテーマを決めて連絡したり、議事録に意見交換した内容を記載するなど、家族の参加を促すためのもう一工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課様・社会福祉課様・高齢者なんでも相談室様(地域包括)・介護相談員様のご指導を頂戴して、管理者のみならず現場職員全体でも連携を図り情報共有させていただいております。	提出物持参などの折にホームの実情報告やタイムリーな情報収集をしている。市の働きかけで定期的に介護予防教室を開催するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	屋間帯の玄関施錠はしていません。夜間帯に関してはセキュリティの観点から施錠はしております。施錠など行動を制限してしまう行為は身体拘束であることを現場でのケアを通じて職員に理解を促すとともにスタッフミーティング等でも周知を促すようにしております。	年間研修に「身体拘束について」を組み込んでいる。新人職員にもオリエンテーションで必ず研修を実施している。日中の玄関施錠はしておらず、帰宅願望の強い利用者には根気よく同行見守りを重ね対応している。また、スタッフミーティングでも「思いやり・労り」という原点に帰ることを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の研修会に参加する予定です。尚、事業所内では入浴介助時等身体の外傷確認や心身状態の観察を強化して、個々の状況把握に日々努めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小規模多機能サービス登録者様で成年後見人様を利用されているので後見人様や高齢者なんでも相談室様を通じて学習させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様と契約書・重要事項説明書を読み合わせた上で、再度詳細説明をしてご了解を頂戴しております。不安や疑問点等についてもその都度ご説明させていただきご納得していただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアカンファレンスまたは運営推進会議などご家族様のご意見・ご要望を頂戴してスタッフミーティング等にて職員全体で共有して出来る限り実行するよう努めております。	経過年数に比例し利用者の要望は減少してきている。要望は食べ物に関する内容が多く、リクエストメニューとして反映している。家族には面会時や電話で要望を聞くようにしており、通院同行依頼に対応したこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを月一回実施しております。職員がそこで意見・提案などを出し合い議論しております。事業所内で決定できない案件に関しては本社管理者会議にて稟議をかけて検討していただいております。	朝礼時や月1回のスタッフミーティングで職員から意見を聞いている。管理者は個別に適宜面接をして意見交換をし、提案の反映に努めている。現場のリーダーは相談窓口としての役割も持ち、職員意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の変動はあるが基本的には柔軟に業務が行えるよう担当制には出来る限りしないよう全員がオールマイティに業務が行えるようにしている。尚、小規模多機能サービスとの兼務が殆どなので各人広い分野で活躍出来る環境でもあります。尚、職員個々の要望・力量も考慮して配置しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や考え方を把握出来るよう管理者のみならず「現場リーダー」を配置して現場職員の指導・育成及び相談窓口としての役割を担ってもらい現場職員個々のスキルアップ向上がしやすいようにしている。管理者⇄現場リーダーも密に連携を図り、個々の力量等の把握をするよう努めている。尚、現場職員には「責任感」「使命感」を養ってもらうよう「居室担当制」(個々のご入居者様担当)にして仕事のモチベーションアップにもなるよう導入し取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内事業所分科会に参加して情報交換及び地域のケアネットワーク会にも出席して「ふれあいサロン」「お休み処」といったボランティア活動団体様との交流にも努めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談にてご本人様のご要望のみならず、職員からも提案させていただき、多少なりとも安心していただけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の状況も踏まえ、それと同時にご家族様の状況も踏まえて無理のないサービス提案をさせていただいております。安心して多種多様なご相談もしていただける関係構築の実現を目指しております。密に連絡のやり取りを行い迅速に対応するよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメント時にご本人様とご家族様のご意向を把握してそのご意向を出来る限り尊重していけるよう計画作成担当者、居室担当者、現場リーダーを中心に職員全体で話し合い、その時必要なサービスだということを検討して判断しご提案させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯・掃除・食事の準備や後片付け等を一緒にを行い、生活協同者であるのだと思っただけできるよう日々努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事・イベントのみならず定期通院等でも事前にお知らせしてご本人様との関わりを増やし且つ、お会いしやすいよう環境設定していくよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の知人が面会に来られた際、ホーム内で気軽にお話しが出来るよう職員全体で意識して雰囲気づくりするよう心掛けております。	友人知人の訪問は限られているが、来訪した際は話しやすい環境をつくるよう配慮している。家族と馴染みの場所に出かけたり自宅に帰るなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間帯は1Fフロアにて小規模多機能サービスご利用者様も含めて一緒に過ごしていただいております。朝・夕のお食事は必ずご入居者様同士で召し上がっていただきます。その際、相性や個々の性格を把握して座席などを考慮して楽しんで過ごしていただくよう心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後についてもご家族様に不定期ではありますが煩わしくない程度にお電話させていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご意向を出来る限り尊重させていただいております。(帰宅願望・趣味趣向等)但し、ホームでも対応しきれない事態が発生した場合には、ご家族様のサポートをお願いしながら出来る限りご本人様の気持ちを最大限に尊重出来るように努めております。	年間目標「5分間以上会話しましょう」を掲げ、全職員で意識をもって全利用者の思いを把握しようと試みている。入浴は職員と利用者がゆっくり会話をできる時間として大切にしており、把握した意向は記録に残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時により多くの情報を収集出来るように努めております。また、ご家族様にもサービス提供時に疑問点等発生した場合には、その都度確認するようしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「気付き」を大切に記録に残して、一人ひとりの様子の変化を把握出来るよう日々観察していくようしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー⇄居室担当者が月一回各々モニタリングを実施して、その各々のモニタリングシートをもとにケアカンファレンスを実施して、ケアプランの進捗及び見直し等を検討していくようしております。その検討内容に準じてサービス提供をしていくように努めております。	居室担当者が月に1度モニタリングを行い、個別のケース検討会議、ケアカンファレンス会議を実施している。6か月ごとの担当者会議には家族や看護師も参加し、医師からの情報を合わせて、現状に沿った介護計画書の見直し・作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(カーデックス記録票)に日々の様子や変化を記録に残しております。特記事項などは「GH連絡ノート」に記録して情報共有を徹底しております。これらを活用して介護計画に反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のみならずご家族様も含め、ニーズの変化に対応するべく「出来ること」「出来ないこと」をより明確に職員全体が認識して、誠意を持ってお客様のご対応をさせていただいております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会様主催のイベント(盆踊り大会・防災訓練・餅つき大会等)に参加させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に係わる重要な情報を把握出来るよう、主治医・ご家族様・管理者・ケアマネージャー及び場合によってはご本人様も含めてカンファレンスを開催して「顔のみえる関係の構築」を意識しております。ご家族様が安心出来るように努めております。	かかりつけ医は利用者の希望を優先しているが、利用者全員がホームの協力医を選択している。月2回の協力医の往診、看護師により健康管理をしている。内科以外の専門医の通院は職員が行っている。家族が受診対応した時も、情報は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師様が来所した際、ご入居者様の健康状態を説明していただいております。また、場合により電話連絡にて相談及びご指示やご指導等いただき対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカー様と情報交換をしてご家族様の意向・要望等を反映し対応しております。入院先にも面会して可能な限り看護様等に状況をお聞きして情報収集しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び主治医とのカンファレンスにて意向を確認しております。その意向を出来る限り尊重して終末期を迎えられるよう医療関係者やご家族⇄職員にて連携していくよう努めております。	重度化した場合や看取りに関する指針について、契約時に説明を行い同意を得ている。過去に看取りの経験はある。今後も、一人ひとり条件や状態の違う利用者・家族にとって何が一番よいのかを話し合い、医療関係者と連携を取りながら支援していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して職員がいつでも閲覧出来るよう準備しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練等を実施して緊急時に対応出来るよう努めております。	消防署立ち合いの年3回の避難訓練に加え、自治会の避難訓練にも利用者と共に参加し、年4回の訓練を実施した。今年は夜間想定訓練も行い、課題も把握できた。次回は自然災害(地震)想定での訓練を予定している。地域とは協力関係ができており、ホームは町民受入れ施設として備蓄品も多く準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に「言葉使い」に気を配り意識して注意を払うよう努めております。声のトーン、思いやりのある穏やかな言葉掛けなどに気を配り、不快感を感じさせないように努めております。プライバシーに関しては、個人情報保護法に基づき対応していくよう努めております。	利用者との信頼関係と「なれ合い」とは違うということを意識し、声かけについては細心の注意を払って対応するようにしている。気になる部分が見られた場合は職員間でお互いに注意している。突然の来訪者は家族に確認をしてから面会につなげるなど、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様⇄職員にて多種多様なお話しが出来る関係づくりを大切にして、思いやご要望をきちんとお聴きするよう努めております。お聴きしたお話しを参考にしてより良い援助が継続出来るようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の「出来ること」を居室担当者を中心に職員全体で抽出していき、個々の役割として行っていくようにしております。その役割を中心にして日々の昼間帯での余暇時間をどのように過ごしたいかを確認しながら皆様のご要望を反映して過ごし方を決定していくよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣等個々の好みに合わせて一緒にコーディネートさせていただいております。ヘアカットに関してもご本人様のご意向に合わせて訪問理美容もしくは、ご家族様がヘアカットして下さったりしてご要望を尊重しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が付き添って一緒に行くよう支援しております。	入居者に希望を聞き、季節に合わせたメニューも取り入れて献立を作成している。利用者も準備や皿洗いなどできる範囲で一緒に行っている。食器を選ぶ、2か月に1度外食をする、また、近隣の桜の下にテーブルを出し手作り弁当での花見を行うなど、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度チェックしております。1日のトータルを集計して「多い・少ない」を判断して申し送り等で情報共有を図り注意を払っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には必ず口腔ケア体操を実施して、食後は口腔ケアを実施しております。義歯の方、介助が必要な方々には職員が対応しております。また、訪問歯科診療様が週一回来ていただいております。治療及び予防対策等ご指導もいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握してトイレで排泄していただけるように努めております。	自立を目的に、基本的にトイレでの排泄支援をしている。一人ひとりの排泄パターンを把握して、夜間や日中に関係なくトイレ誘導を行っているが、その日の体調に合わせてリハビリパンツやパッドの使用に切り替えるなど臨機応変に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事においては、食物繊維の多く含まれた食品及び乳製品等取り入れるようにして工夫しております。また、体操等運動を頻繁に取り入れ予防していくように心掛けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定の曜日は計画しているが、体調不良もしくは、外出予定がある場合などが生じてしまったら出来る限り振り替えて入浴していただいております。AM・PMとも入浴実施するよう努めております。	1階の小規模多機能型居宅介護事業所の広い浴室を使用しているため、リフトでの入浴や友達同士での入浴がいつでもできる。入浴を拒む人でも声かけの工夫で少なくとも週2回は入ってもらっている。また、入浴剤を利用したり、菖蒲やゆず湯で楽しむ工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠が生じた場合には、お茶・コーヒー・ココアなど温かい飲み物をお出ししてお話を聞くなどして安心してベッドに横になっていただくようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セット担当(夜勤者)・薬セットチェック担当(早番者)・服薬介助者(日勤者)でのトリプルチェックを実施しております。服薬介助者は落薬・誤薬のないよう注意を払っております。尚、症状の変化に対応するべく必ず記録に残して変化が生じている場合には主治医に報告をして指示を仰ぐように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々に合わせてイベントを企画して、出来る限り外出の機会を増やして気分転換していただけるようにしております。ご入居者様のご要望に添った企画を立案して実行しております		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に出来る限り合わせて、散歩・買物・通院等に出掛けております。自治会主催のイベント(盆踊り・防災訓練・餅つき大会)等にも積極的に参加しております。	定期的な外出や花見、自治会のイベント等に参加している。また利用者の個人的な買い物に出かけることもある。利用者の重度化や利用者の精神的なケアに時間がとられてきてはいるが、その中でも職員は積極的にイベント外出を試みている。	職員は、利用者の「用意が面倒」「迷惑がかかるから行きたくない」などの思いと、外出先での利用者の笑顔の両面を把握している。今後は外気に触れる、季節を楽しむなどの日常的な外出支援に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい込んで忘れてしまうご入居者様がほとんどなので、ホームの金庫にて「お小遣い金」としてご家族様からお預かりしたお金を管理しております。また、外出時には、職員管理のもとでご本人様にお渡しして対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じてお電話出来るよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション時に制作した作品などを玄関等に展示しております。照明も暖かい色合いの照明を選んで穏やかな雰囲気づくりを演出しております。特に「香り・臭い」を意識してホーム内での不快感を感じさせないように心掛けております。(特に玄関・トイレ・キッチン)	グループホームは2階にあり、高い天井で広々としている。ソファや椅子をあちらこちらに置いて利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえるように工夫し、日当たりのよい和室で寛ぐ利用者もいる。壁には利用者の作品を飾ったり、季節感のある装飾がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F・2Fフロア・食堂・和室など自由に利用出来るよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や昔に慣れ親しんだ愛用品などを継続して使用していただき安心して過ごしていただけるよう居室担当者が中心になり演出しております。	入居時に慣れ親しんだものを持参するように伝えている。仏壇や家族の写真、趣味の物などを持ってきている。近年は脚力低下による転倒に気を配り、家具の配置を変えるなど、安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したりたたんだりする事が安全に出来る環境にしております。また、残存機能を活かして入浴等出来るよう浴室も整備しております。		